

# 会社概要／株主メモ

## Corporate Profile / Shareholders' Memo

(2022年9月30日現在)

### ■ 会社概要

商号	こころネット株式会社
発足	2006年4月 [当社の前身である(有)菅野石材工業の設立は1966年3月]
所在地	福島県福島市鎌田字舟戸前15番地1
代表者	代表取締役会長 齋藤 高紀 代表取締役社長 菅野 孝太郎
資本金	500百万円
決算日	3月31日
従業員数	グループ: 500名 [外、臨時従業員20名] 単体: 33名
事業内容	グループ運営にかかる経営戦略企画、業績管理、不動産管理、総務・経理・人事等の管理

### ■ 役員

代表取締役会長	齋藤 高紀	取締役	伊藤 信弘
代表取締役社長	菅野 孝太郎	取締役 (常勤監査等委員)	加藤 重光
取締役	澤田 正晴	取締役 (監査等委員)	大出 隆秀
取締役	熊坂 秀一	取締役 (監査等委員)	菅野 晴隆
取締役	羽田 和徳		

### ■ 株主メモ

上場市場	東京証券取引所スタンダード市場
上場日	2012年4月25日
証券コード	6060
事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
株主確定基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日、9月30日
株式の売買単位	100株
公告掲載方法	電子公告の方法により行います。 ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載を行います。 電子公告掲載URL: <a href="https://cocolonet.jp/">https://cocolonet.jp/</a>
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
各種事務手続き	詳しくは、三菱UFJ信託銀行のHPページにてご確認ください。 <a href="https://www.tr.mufg.jp/daikou/">https://www.tr.mufg.jp/daikou/</a>



証券コード 6060

# 株主の皆様へ

## 2023年3月期 第2四半期のご報告



こころネット株式会社  
〒960-0102 福島県福島市鎌田字舟戸前15番地1  
TEL 024-573-6556 FAX 024-573-6560 HP <https://cocolonet.jp/>



※環境に配慮して再生紙と植物由来のインクを使用しています。



代表取締役社長  
菅野 孝太郎

## 「2030年ビジョン」の実現に向け、 中期経営計画の取組みを着実に推し進める。



私たちは、人々の「こころ」に満足と安らぎをもたらす  
サービスを提供いたします。

－ グループ理念 －

### Q1 当上期の業績と通期の見通しをお教えてください。

**当上期は当初予想を上回る増収増益となりました。  
通期での更なる業績回復に向け、邁進します。**

当上期における経営環境は、ウィズコロナの新たな段階へと移行が進められ、景気は緩やかな持ち直しの動きが見られました。その一方で、国際情勢の影響等が懸念される中、物価の上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等による下振れリスクに注視が必要な状況で推移しました。

こうした経営環境は、当社グループが展開する各事業にも影響しております。葬祭事業や婚礼事業では、葬儀への参列自粛や会食利用の減少、挙式・披露宴の自粛や縮小等はコロナ禍前の水準まで回復しておらず、葬儀や婚礼の小規模化等が継続したものの、各種施策の効果もあり、業績への影響は前年同期よりも回復に向かいました。石材事業では、国際情勢の影響等により、海外における原石の在庫不足、仕入原価の上昇、石材商品の入荷遅延等が継続しました。なお、ベトナムにおける墓石販売については、コロナ禍の影響による営業活動の停滞は回復に向かいました。

こうした状況下、当上期の連結業績は、当初予想において増

収増益を見込んでおりましたが、これを上回る成果を上げることができました。売上高は前年同期比9.3%増の4,773百万円、営業利益は同83.5%増の331百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同60.6%増の169百万円となりました。コロナ禍からの回復基調を、前期に引き続き一歩ずつ着実に辿っており、この流れを下期以降も継続してまいります。

セグメント別の状況を見ると、葬祭事業では、安置施設「とわノイエ 黒岩」(福島県福島市)の開設、葬祭会館「こころ斎苑 きずな」(福島県福島市)の改築等、小規模葬儀ニーズへの対応を進めるとともに、広告宣伝による事前相談への誘致、オプション品の販売促進による葬儀施行単価の低下抑制、法事・仏壇仏具の販売や葬儀施行後の会員募集によるアフターフォロー営業の強化等に注力し、葬儀施行件数や葬儀施行単価等が前年同期よりも増加した結果、増収増益となりました。石材事業では、石材卸売において既存取引先への販売促進に注力するとともに、石材小売において来店客誘致と店舗営業の強化、墓石のリフォーム・メンテナンスの提案等を推進したものの、石材卸売・石材小売ともに販売数量等が前年同期よりも減少し、更に仕入原価が上昇した結果、減収減益となりました。婚礼事業では、事業環境の変化等を踏まえ、ゲストハウス「アニエス郡山」(福島県郡

山市)を閉館する一方で、広告宣伝による新規来館への誘致、高付加価値な婚礼形式の訴求やオプション品の販売促進による婚礼施行単価の低下抑制、料飲ビジネスの拡充等に注力し、婚礼施行単価や宴会施行件数等が前年同期よりも増加した結果、増収及び営業損失の縮小に至りました。

2022年度(2023年3月期)の通期連結業績予想につきましては、当初予想から変更しておらず、売上高は前期比6.0%増、営業利益は同56.1%増、親会社株主に帰属する当期純利益は同197.7%増を見込んでおります。少しでも予想を上回ることができるよう、グループ一丸となって取り組んでまいります。

### ■ 連結業績の推移(単位:百万円)

	2022/3		2023/3	
	上期(実績)	通期(実績)	上期(実績)	通期(予想)
売上高	4,366	8,675	4,773	9,200
営業利益	180	297	331	465
経常利益	220	341	349	530
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	105	131	169	390

### Q2 当期よりスタートした中期経営計画の進捗状況をお教えてください。

**新たに掲げた長期ビジョンの実現に向け、  
重点施策への取組みを始めております。**

当社グループは、大きな転換期を迎えた時代の中で適切かつ迅速・果敢な意思決定を行うとともに、長期的な視点をもった経営を推し進めていくために、私たちのグループ理念の元、「2030年ビジョン」を掲げ、こころネットグループが創る社会的価値、2030年の財務目標・非財務目標及び将来像等を明確化しました。

当期よりスタートした「第4次中期経営計画」(2023年3月期～2025年3月期)は、この長期ビジョンの実現に向けた企業戦

略であり、同計画の基本方針「成長をスパイラルアップするフレームづくり」に基づき、次の3つの重点施策に取り組んでおります。

- 1 「価値創造のフレームづくり」
- 2 「経営資源の集中と深化」
- 3 「経営基盤の強化」

具体的には、当上期においては、マーケティングの高度化に向けた「攻めのDX」の基礎づくり、生産性向上の加速に向けたワークアウトの体系化・浸透や「守りのDX」の基礎づくり等を推進しました。また、戦略的アセットマネジメントとして、施設のスクラップ&ビルド等を進めました(詳細はP4参照)。更に、コーポレートガバナンスの充実として、業務執行取締役に対する譲渡制限付株式報酬制度の導入(詳細はP4参照)や、取締役会の実効性評価に向けた対応等を実施しました。

### Q3 最後に、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

**株主の皆様のご支援のもと、持続的な成長と  
中長期的な企業価値向上に努めてまいります。**

株主の皆様への利益還元につきましては、「安定・継続」を基本として、上場以来、年間配当30円を継続してまいりました。この姿勢は、コロナ禍の中にあっても変わらず貫徹することができました。そして当期も、中間配当15円を実施し、期末配当15円(予想)、年間配当30円を計画しております。

「第4次中期経営計画」の取組みはまだ始まったばかりですが、絶えず新しいものに挑戦し続ける「進取の気概」をもって、持続的な成長と中長期的な企業価値向上に努めてまいります。

株主の皆様には、引き続き当社グループの経営にご理解、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

■ 基本方針

## 「成長をスパイラルアップするフレームづくり」

～旧ビジネスモデルから脱却し選ばれる成長企業へ～

第4次中期経営計画の詳細は当社ホームページをご覧ください



■ 重点施策

価値創造のフレームづくり

- マーケティングの高度化
- 生産性向上の加速

経営資源の集中と深化

- 戦略的アセットマネジメント
- 事業開発による業容拡大

経営基盤の強化

- 人事戦略のブラッシュアップ
- コーポレートガバナンスの充実

■ 事業別施策

葬祭事業

- 競争力の強化
  - ・商品・サービスの抜本的再構築
  - ・葬祭会館の計画的リノベーション等
- 営業規模の拡大
  - ・葬祭会館の戦略的新規出店
  - ・同業M&Aの推進等
- 事業領域の拡充
  - ・LTVの最大化
  - ・ライフエンディング領域におけるアライアンス強化等



石材事業

- 競争力の強化
  - ・商品・サービス・Web販売の高付加価値化等
- 営業規模の拡大
  - ・関東地区を中心とした販路拡大
  - ・ベトナムにおける販路拡大等
- 事業領域の拡充
  - ・LTVの最大化
  - ・寺院・供養周辺領域におけるビジネス展開等



婚礼事業

- 競争力の強化
  - ・企画力・施行クオリティでの差別化
  - ・Webマーケティングの高度化等
- 営業規模の適正化
  - ・内製化と外注化の見極め
  - ・婚礼会場の計画的スクラップ&ビルド等
- 事業領域の拡充
  - ・LTVの最大化
  - ・リソース活用による新たな収益源の構築等



生花事業

- 競争力の強化
  - ・商品・ツール・Web販売の高付加価値化
  - ・仕入体制の強化等
- 営業規模の拡大
  - ・グループナジーの更なる発揮
  - ・新規営業所の設置検討等
- 事業領域の拡充
  - ・生花小売領域におけるビジネス展開
  - ・アライアンスの検討等



TOPICS  
1

## 施設のスクラップ&ビルド

当社は、第4次中期経営計画の重点施策「経営資源の集中と深化」の中に「戦略的アセットマネジメント」を掲げ、「計画的スクラップ&ビルド」を推進することとしております。

当上期においては、婚礼事業で2022年6月末をもってゲストハウス「アニエス郡山」(福島県郡山市)を閉館するとともに、葬祭事業で2022年7月に安置施設「とわノイエ 黒岩(福島県福島市)」を開設し、更に2022年10月のリニューアルオープンに向けて家族葬専用葬祭会館「こころ斎苑 きずな」の改築等を進めました。

当社は、今後更に、アセットの付加価値を維持する積極的投資の実行、攻守に戦略的な店舗展開等を推し進めてまいります。

とわノイエ 黒岩

こころ斎苑 きずな



TOPICS  
2

## 譲渡制限付株式としての自己株式処分の実施

当社は、2022年5月、当社の業務執行取締役及び当社の子会社の取締役に対して、当社グループの企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを付与するとともに、株主の皆様と一層の価値共有を進めることを目的に、譲渡制限付株式報酬制度を導入いたしました。

本制度の目的、当社の業績、各対象者の職責の範囲及びその他諸般の事情を勘案し、2022年7月20日、譲渡制限付株式として合計14,200株の自己株式処分を行いました。

■ 処分の概要

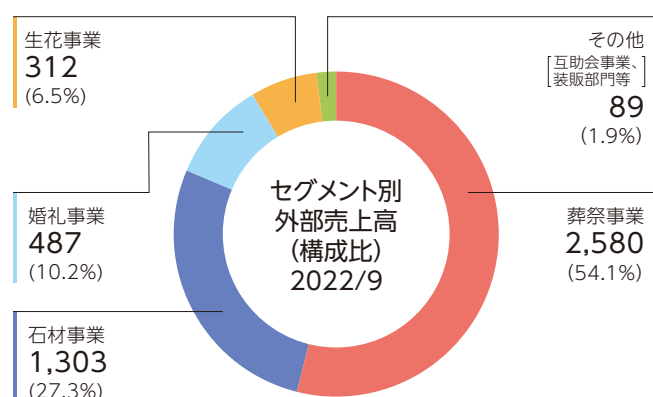
株式の種類及び株式数	当社普通株式 14,200株
処分価額	1株につき898円
処分価額の総額	12,751,600円
処分先	当社の取締役 4名 7,800株 当社の子会社の取締役 5名 6,400株

■ 決算・業績ハイライト

(単位:百万円)

	2021/9	2022/9	増減率
売上高	4,366	4,773	9.3%
営業利益	180	331	83.5%
経常利益	220	349	58.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	105	169	60.6%
	2022/3	2022/9	増減率
総資産	18,534	18,642	0.6%
純資産	8,032	8,196	2.0%
自己資本比率	43.3%	44.0%	0.7%

■ セグメント別外部売上高(構成比)



※単位はすべて百万円、百万円未満は切捨てて表示しております。

■ 決算のポイント

売上高の状況

主に葬祭・婚礼・生花事業における増収により、売上高は前年同期比9.3%増。

損益の状況

国際情勢の影響等により仕入原価の上昇や為替差損の計上が生じたものの、売上高増加に伴う増収に加え、販売費及び一般管理費の圧縮等により、営業利益は前年同期比83.5%増、経常利益は前年同期比58.2%増、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比60.6%増。

セグメント別の概況

**葬祭事業**：葬儀施行件数並びに葬儀施行単価等が前年同期よりも増加したこと等により、売上高は前年同期比9.5%増。

**石材事業**：石材卸売・石材小売ともに販売数量等が前年同期よりも減少したこと等により、売上高は前年同期比2.6%減。

**婚礼事業**：婚礼施行単価並びに宴会施行件数等が前年同期よりも増加したこと等により、売上高は前年同期比48.2%増。

**生花事業**：生花需要は前年同期よりも回復が見られ、生花及び生花商品の卸売数量が前年同期よりも増加したこと等により、売上高は前年同期比18.5%増。

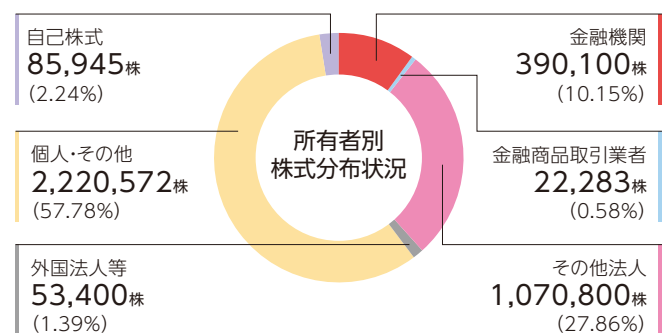
**その他**：互助会事業では営業部門の葬祭事業への移管に伴い葬祭事業からの手数料収入の見直し等を行ったこと、装販部門では棺の卸売数量並びに販売単価が前年同期よりも増加したこと等により、売上高は前年同期比16.3%増。

(2022年9月30日現在)

■ 株式の状況

発行する株式の総数	5,100,000株
発行済株式の総数	3,843,100株
株主数	897名

■ 所有者別株式分布状況



■ 大株主

株主名	所有株式数 (株)	持株比率 (%)
カンノ合同会社	920,000	24.49
齋藤 高紀	424,900	11.31
川島 利介	278,475	7.41
こころネットグループ従業員持株会	191,240	5.09
株式会社東邦銀行	175,000	4.66
株式会社福島銀行	135,000	3.59
内藤 征吾	115,000	3.06
水元 公仁	103,900	2.77
菅野 孝太郎	78,540	2.09
上田八木短資株式会社	60,800	1.62

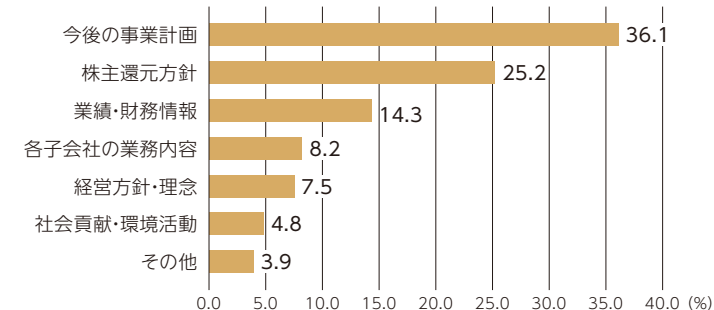
※カンノ合同会社は、当社代表取締役社長菅野孝太郎並びにその親族の保有資産の管理を行う会社です。

※持株比率は自己株式(85,945株)を控除して計算しております。

■ 前回の株主様アンケートのご報告(2022年3月期 第2四半期)

「株主の皆様へ(2022年3月期 第2四半期)」において、株主様アンケートを実施させていただいた結果、103名の株主様よりご回答をいただきました。(回答率11.6%)

■ 当社に関して、もっとお知りになりたい情報をお聞かせください。



■ 株主様のお声の一部

- 厳しい環境であるが、地域のニーズを把握して利益を上げて欲しい。
- 増配を期待しています。
- 地域での密着度合いを上げるためにも、株主優待を検討して欲しい。
- 地元企業であり期待して保有したが、未だに公募価格を割っている。
- 成長戦略を示して欲しい。
- このコロナの時期だからこそ、M&Aで事業拡大すべきだと思います。
- 景気のup・downにも耐えて持続的発展を期待しています。
- 冠婚葬祭の事業はとても大切なので、頑張ってください。

なお、今回の「株主の皆様へ(2023年3月期 第2四半期)」において、株主様アンケートを同封させていただきました。皆様の貴重なご意見を参考とさせていただき、今後の経営に役立てて参りますので、アンケートへのご協力をお願い申し上げます。